

3. アライグマ・ハクビシンが引き起こす問題

(1) どのような被害を引き起こすのか

アライグマ・ハクビシンは、多様な環境で生息が可能であり、高い繁殖力を持つなどの特徴から、個体数を増加させ、分布域の拡大にも繋がったのではないかと考えられています。その結果、さまざまな問題が起きています。

①生態系被害

特にアライグマによる在来生物への影響が確認されています。

【全国での被害例】

- ・ニホンザリガニやエゾサンショウウオなどの捕食（北海道）
- ・**トウキョウサンショウウオの捕食（神奈川県・東京都）**
- ・ニホンイシガメの捕食（千葉県・愛知県）
- ・アオサギの卵等の捕食（北海道）



横沢入里山保全地域（東京都あきる野市）で発見されたトウキョウサンショウウオの被食体



横沢入里山保全地域で発見されたヤマアカガエルとみられる被食体
(写真提供：日本獣医生命科学大学 加藤 卓也)

②生活環境被害

アライグマ・ハクビシン共に、家屋侵入による建物の破損、糞尿による汚損等（特に天井裏）の被害が大きな問題となっています。

また、ネコやコイ、金魚やニワトリなどの飼育動物がアライグマによって捕食されたという事例もあります。



ハクビシンによる家屋侵入による建物の汚損



アライグマによる家屋侵入による建物の破損



ハクビシンによる糞による汚損

(以上 3 枚の写真は東京都内で撮影されたもの)

(写真提供：NPO 法人 自然環境アカデミー 野村 亮)

③文化財への被害

アライグマ・ハクビシン共に、寺院・仏閣などの侵入による建物の破損、糞尿による汚損等で文化財に傷をつけるという事例が発生しています。

④農林水産業被害

アライグマ・ハクビシン共に、果樹や野菜、イモ類、飼料作物、マメ類を中心とした様々な農作物に深刻な被害を引き起こしています。

また、アライグマによるニワトリやアヒルなどの家禽類、コイやニジマスなどの養魚類への被害も多数報告されています。



東京都八王子市で発見されたアライグマによる柿の被害
(写真提供：日本獣医生命科学大学 加藤 卓也)

⑤人獣共通感染症

アライグマやハクビシンは、複数の人獣共通感染症を媒介する可能性があると言われています。また、両種からはペットに重篤な感染症を引き起こす病原体が検出されています。

(参考資料②)

表 アライグマ・ハクビシンが媒介する可能性のある主な感染症

人間への感染の恐れがある疾病			
伝播方法		主な感染経路	感染症名
直接伝播		だ液→咬み傷	狂犬病
		便→手指に付着 →経口感染	トキソプラズマ症
			エキノコックス症
			サルモネラ感染症
			カンピロバクター感染症
			エルシニア感染症
			アライグマ回虫幼虫移行症
			重症急性呼吸器症候群 (SARS)
		皮膚接触	皮膚糸状菌症
			疥癬
間接伝播	外部寄生動物 媒介	ダニ類	日本紅斑熱
			ツツガムシ病
			重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)
	環境媒介	水	レプトスピラ症
	動物性食品 媒介	肉	E型肝炎
			サルモネラ菌食中毒
			カンピロバクター菌食中毒
			エルシニア菌食中毒
ペットへの感染の恐れがある疾病			
ジステンパー			
バルボウイルス感染症			
アデノウイルス感染症			

※感染症名欄が灰色のものは法令上の通報義務がある8種